

- 1 研修日 平成29年6月1日(木曜日) 13時～15時30分
- 2 訪問校 三浦学苑高等学校(宮野くに子校長)
- 3 視察者 浜松学芸中学・高等学校 内藤 純一校長他20名の副校長・教頭他
- 4 視察報告

三浦学苑高等学校は昭和4年に創設され以来87年の歴史と伝統を築き上げてきた学校である。変化の激しい社会を生きるために、まず「夢」を見定めることが必要であり、夢を見つけその夢を追って積極的に自ら学び、自ら考え、自ら行動することで輝ける人生が送れるようになる。校長自ら自分の夢を育て、生きる力を培うをコンセプトに日々努力している学校である。

【三浦学苑高等学校の教育について】

- ① 校訓 「初心忘るべからず」
- ② 教育方針

○見栄を飾らず、実質本位の教育を本旨とし、健康を重んじ、生徒の個性と能力に応じてその長所を充分発揮せしめるよう努める。

○自主独立の精神を涵養し、他人にたよらず、独力をもって、しかも忍耐強く、誠実に人生を開拓していく習慣を身につけさせる。

実践目標

○自立的態度の育成 ○学力の充実 ○しつけの徹底 ○責任感と奉仕精神の高揚

努力目標

○進学、就職、進路の実現

○スポーツ スポーツクラブ活動の充実の向上

○芸術 芸術、文化活動の充実と展開

○技術 技術の習慣と資格の取得

- ③ 学校改革…教師の意識改革を図り生徒・進路・教科指導の総合的な改革を推進した。
 - ・改革のステップとして
 - ・背景～各指導が教員個々の裁量に任され、指導基準もなかったため、進学実績にばらつきが生じ、進路未決定者も多かった。
 - ・実践～生徒指導の統一化を皮切りに、進路・教科指導面でも学校全体での取り組みを開始した。
 - ・成果～教師間の意識統一がなされ、指導の足並みが揃い、フリーターや進路未決定の人数が激減した。
- 5 全体を通しての感想・意見等
 - ・校長・教頭自らが分科会(グループワーク)に参加して頂き、いろいろな質問に対しても親切丁寧に対応してくれた。
 - ・かつては荒れた学校が、いろいろな変革、先生方の努力、やる気で学校が大きく変わっていった事に対して驚かされた。
 - ・生徒の挨拶、先生方の対応も良く視察校として魅力を感じた。

静岡県私学教頭専門部会 木更津総合高等学校報告書

報告者 加藤学園暁秀高等学校教頭 岩城 直己

訪問日時：6月2日 10:00～12:20

真板校長以下

沿革： 木更津中央高等学校(40年の歴史)と清和女子短期大学附属高等学校(30年の歴史)が発展的統合(H15.4.1)。

規模： 男女共学で、生徒数2000人以上。教職員120名以上の大規模な学校
キャンパス内には短期大学キャンパスを含め、グラウンド2面、体育館3棟、テニスコート5面他、食堂、コンビニ、コンピュータ実習室など施設は充実

特色： 1. コース制 特別進学コース、語学コースなど8つのコースがあり、特別進学コース以外は高1次にコース決定し、2年次より分かれる。
2. ハウス制 特別進学ハウス、1学年ハウス、2学年ハウス、3学年ハウスの4つの建物があり、職員室もそれぞれに独立している。200mの廊下あり。
3. 総合選択制 2年次、3年次にそれぞれ8単位の選択科目が選べる。コースごと必修科目が4単位あり、残り4単位はコースを越えて選択ができる。ただし、1学期中に希望を聞き、無理なパターンがないように考える。例：古典、数学はあえて同時限に組むことで選択を不可能にできる。

進路： 生徒の内、1/3は就職、1/3は専門学校、残りは大学進学
清和大学(法学部) 聖和短期大学(幼児教育)に推薦で進学する者もいる。
大学の講義なども進路指導に活用している。幼稚園も3園あり、実習も充実。
特別進学コースは千葉大学10人以上合格を目指している。
英検、漢検講座を開き、2020入試改革に向けて資格取得を奨励。
進学希望生徒には放課後特別講座を開講。1講座5000円を徴収し出欠を取る。

入試センター： 広報活動は県全域に展開。専用スタッフ8名の内、授業を持たぬ者6名。
中学校は170校、塾は500校をで訪問している。
生徒へのアンケートを分析し広報活動に活かしている。

就職指導として： 公務員の就職10名を倍の20名に増やしたい。
インターシップ26社→48社へと増加(高3は授業を抜けて参加する)
製鉄所での体験等の結果、卒業生の離職を防ぐことに役立っている。
事務室でも生徒が受け付けの実践体験ができることも就職に役立つ。

質問から 1. 就業体験は公欠扱いで保険にも加入済み。報告書を数日で提出させている。
2. 高大連携の効果について：清和大学の法学講義、情報実習が進学に役立つ。また、ピアノの実習が短期大学への進学に役立っているとのこと。
3. 放課後の講習は進学希望400人中ほぼ半分の200名が希望している。中には週5時間希望する者もいる。運動部の生徒の受講は難しい。
4. ホームルームでは各コースの生徒が混ざっている。(特別進学コースは単独)コースごとのホームルームでは人間関係のトラブルが起こると解決が難しいとのこと。スポーツコースのクラスが散らばれば、全国大会へ行く場合など全校で喜びを共有できるのは良いこと。